

ゴールデンウィーク
8月の黄金週間

おばあちゃんと遊ぼう!



成人向け
FOR ADULT

目次

4p カルラおばあちゃんのビデオレター ラヂヲヘッド

7p 百合夫とおばあちゃんの×××な一週間 ラヂヲヘッド
(28p 小説 神谷 涼)

52p トリノ宗肉

53p 百合夫くんとおみかんきゅん チンズリーナ

57p MARIO

63p でっこ

65p 蔵屋

69p 彗星ペンギン

71p こへ

74p たくマ

76p 沈没

78p 夏休み特別企画!ブタエルフのダイエット教室 トヤマル

83p ざるそば

85p しのだき嶺

注意・免責事項

- ・18歳未満の未成年の購入・閲覧を固く禁じます。
- ・本誌の無断転載、およびWEBへのアップロード等を固く禁じます。

上記の2点を侵したことによって起こりうるあらゆる問題の責を
当サークルは追わないものとします。

また本誌の登場人物はすべて18歳以上の成年です。
念のため。

田舎のおばあさんから届いたビデオレター……中身は「一体なんですかね
ヒビ……ウイイイイイ……」……

こ……これでいいの……か……？

……びびびびびび……！

百合夫♡元気にしておるかや？おばあちゃんじゃぞえ♡

ぶっつ……か、華楼羅おばあさんっ！

つ……次はいつ遊びにくるのかのお？

あれからずっと百合夫のいいつけ通りに
糞をた「ん」とひれるよう頑張ったんじゃぞ……？

そ……そういえば去年遊びに行った時

僕のおケツで童貞捨てたくて我慢できずに

夜這いしてきたおばあさんに

「……うんこの穴でつよ、僕に種付けしたいなら
うんこ大好き♡うんこと仲良し♡」

のおばあさんになつててくだないねっ……」

……っていつて止めたんでした……

んっ……ふっ……

ほ、ほれ……毎日毎晩糞と百合夫のことだけ

考えてこの一年過ごしてたんじゃぞ……？

どうじゃ？わらわの目みたいないなデカッ尻の

ド真ん中でおつぷろがつておるとえらい肛門は、

もうどこから見ても立派に「うんこと仲良し♡」「……じゃろ……？」

これからカメラの前で、その証拠を見せてやるからの……っ♡

ゆさっ

ゆさっ

一四ヶ月前

ゆ…百合夫
後生じやから

はあ

はあ

はあ

はあ

お主のその桃尻で
わらわの童貞
切つてくりやれっ！

な？
なっ？

はあ

いいじやろっ

…ダメでつよお
おばあたんっ

ココって
うんちが出てくる
穴でつよお？

う…ん…ちっ♡

もしボクと
セックス♡
したいなら…

うんち大好きっ♡
うんちと友達っ♡

…って言える
くらいになつてて
くだたいねっ♡

もぞ…

う……っ
うんち…!?

そっ！

うんちでつ！
だってココ
肛門でつよお？

たじ..

うっ…
うんちと友達
…かや…？

そんなん…
一体どうすりや
いいんかえ…

そこはおばあたんが
考えて工夫して
くだたい♡

もしそうなつたら
やらせてくれる
のかや…？

もっしろん
でつよお♡

そして八月

都会から
電車で5時間—

バスを2度
乗り換えて
2時間—

ゴトン
ゴトン

山間の小さな
この村で 神様を
祀る 祈禱師を
しながら

カルラ
おばあさんは
暮らしていまっ

ラヂヲヘッド

ふたなりで
童貞の一

ボクの
おばあたん♡

久しぶりじゃ
のお 百合夫

長旅で疲れた
じゃろ？ まずは
一休みせえ

はいっ！

おばあさんの送ってきた
排泄シーンDVD…
どう見ても自画撮り
でしたけど…

今こうして見ても
信じられないでっね

前と同じお上品な
おばあさんのままでっし…



まあいいか
慌てなくて

あと一週間
あるんでっし…



夏といっても
夜は冷え込むのに
しょうのない子
じやのお…

どれ おばあちゃんか
温かいお布団♡
かけたげるかの♡

おやおや…

居眠りして
しまったのかえ？

カア

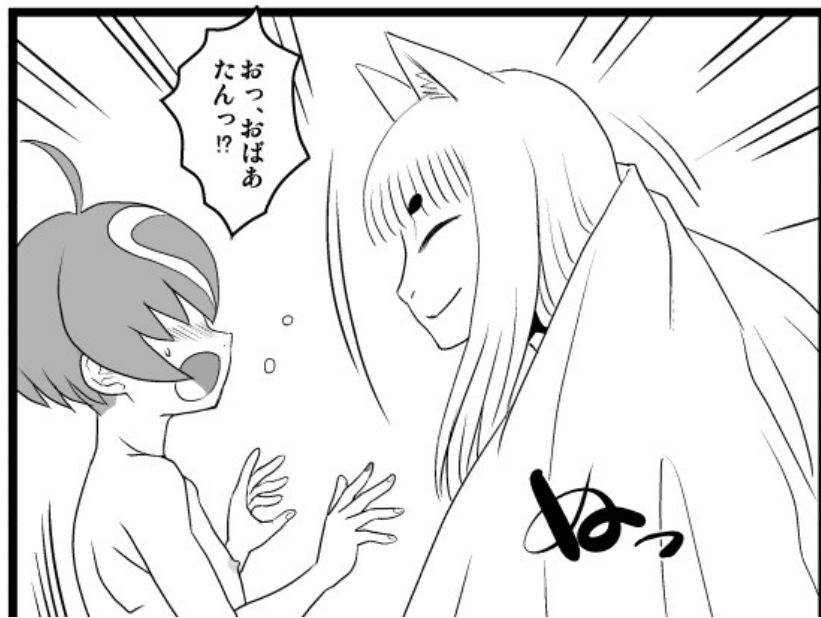
カア

カア

おんね♡







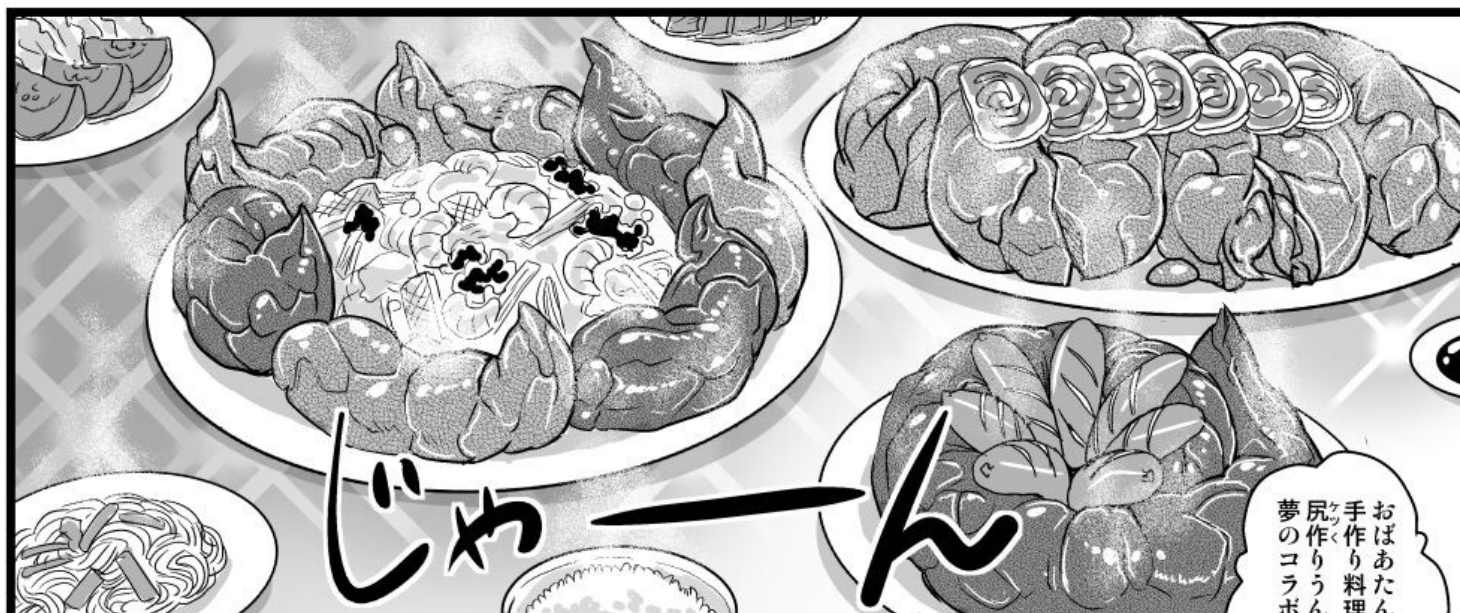
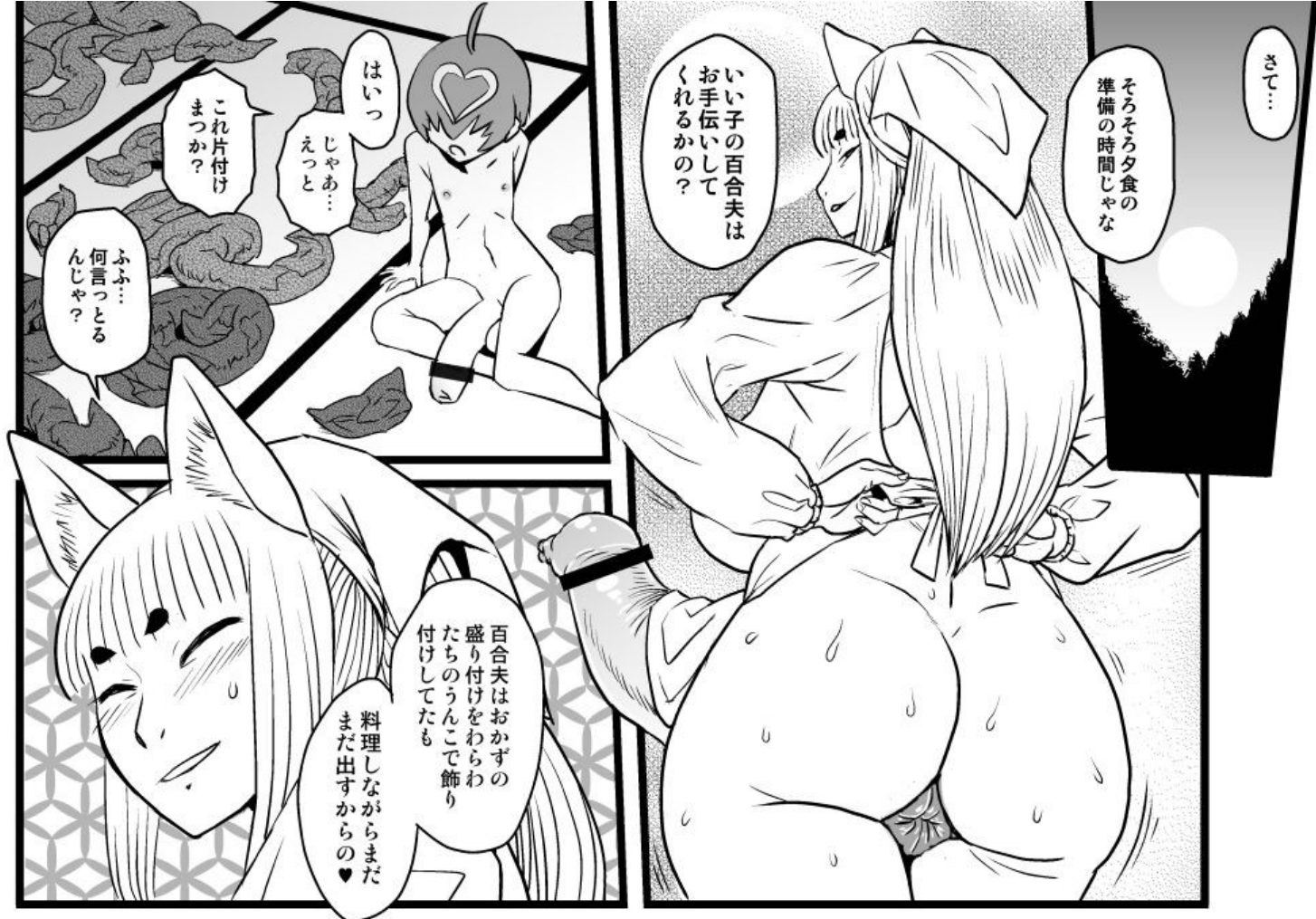












ジグジグジグジグジグジグジグ

今日は裏の御山の川までビクニックに行くことになりました

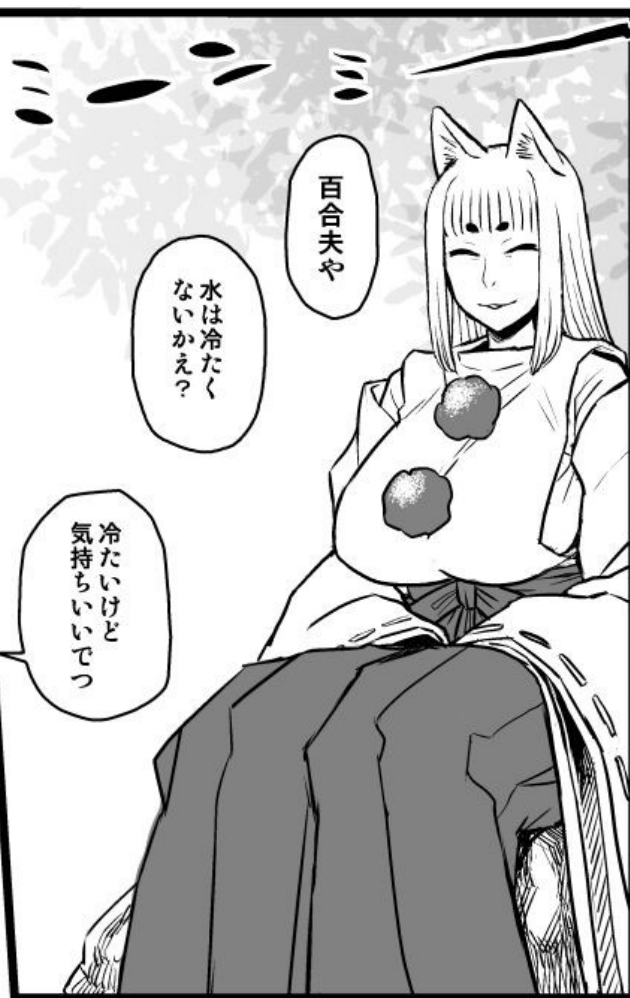
御山には村の神様華楼羅様が祀られていておばあさん以外には禁足地になってるんでつが…



でもあの…

なんか生えて来ちゃったんでつけど…

しっぽ…？



百合夫や

水は冷たくないかえ？

冷たいけど気持ちいいでっ



カワイイ狸の耳しっぽ♡

わらわにも耳だけじゃのうて尻尾が生えてきよったわい

御山は神気が強いからのわらわの血を引くお主も影響受けたんじやろ

だったらおばあさんと同じキツネが良かったでっ……

何を言うかつ
百合夫の方が
可愛いぞっ！

ほれっ！

おばあちゃんは
もう辛抱たまらん
ぞえっ!!!♡

そ...

そんなスゴイの
見せられたら
ボクもたまらなく
なっちゃうまっよお...

むく
むく♡



フリッ♡

株ギ

華楼羅様はそんな
小さなことをお気に
なさる神さんじゃ
ないぞえ！

むしろお主のような
可愛い童子の糞なら
大歓迎じゃ♡

どれ
わらわも脱いで
一緒に仲良く
ひり出すかの♡

は
ではいつ



じゃば
じゃば♡

うーん

でも御山
汚しちゃって
いいんですか？

う...うわっ
何あれっ！
ひそ
ひそ

みう
ちゃんっ
早く逃げ
ようよおっ！
ひそ

たまらんと言えは
そろそろ溜まって
きたんじゃないかえ？

かき

...ふふ

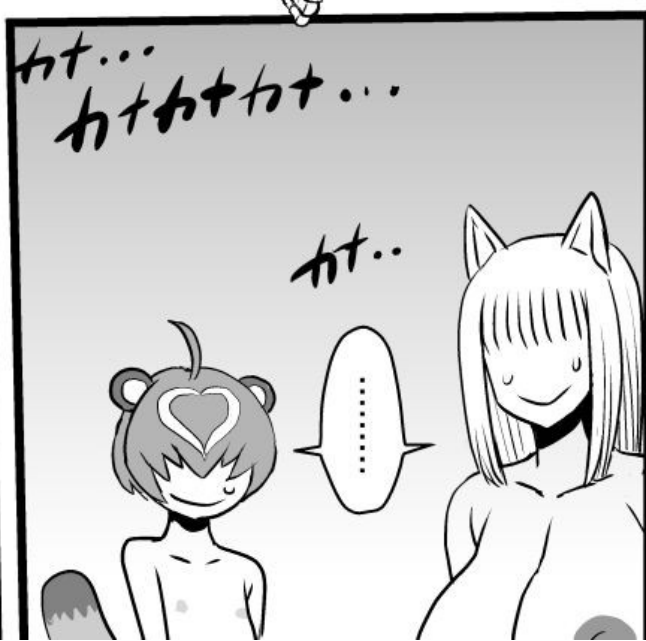


一時間後...



さらに一時間後...





百合夫とおばあちゃんの×××な一週間 四日目

神谷 涼

いやはや、愛らしい子らであつたのう。また遊んでやらねばなるまいて」
迎えに来た親に子らを預け、見送つた後。

麦茶を注ぎ、舌なめずり混じりにカルラが呷く。

「でも、あんな子たちにあそこまでやつちやつて、よかつたんでつか？」

身内外に臆病な百合夫は、不安げな色を隠せない。

「おほ？ 何を言つておる。わらわをこのように染めたのは、百合夫であらうに」

「いや、それはそうでつけど、それとこれとは」

元々が臆病な百合夫はそれでしどろもどろになつてしまふ。

「ましかし、百合夫がこうなつてしまつた理由の一端は、わらわにもあるからのう」

「そりやま、おばあさんの孫でつから」

「そういう意味ではないんじやがの」

照れる様子の百合夫に、カルラが一言ぼつりと呷やいた。

「他にも何かあつたんでつか？」

「おほ、さすがの百合夫も覚えてはおらんか。まあ仕方あるまい。ようやく乳離れしたかせぬかといつた頃じやからのう」

「何、あの頃は、わらわも溜まつておつてのう。気持ちよさそうに寝ておる百合夫を見ると、こ、う、むらむらつと来てしもうたんじや」

「ちよ、ちよと待つてつっ！ いつた何をしたでつかつ！」

これにはさすがの百合夫も前髪の下で目を剥くしかない。

「ほほ、皮を剥いたチンポを突き出してやると、百合夫が美味そうに吸つてくれてのう。思えばあれが、わらわ自身以外の唇が初めてここに触れた瞬間であつたかのう」

「はや……」

恥じらいながら、亀頭に先走りを広げるように「の字」を書くカルラ。

そんな様子について見とれてしまふ百合夫。

「わらわの恥垢まみれの亀頭をちゅばちゅばと吸つてくれたのが、昨日のことのようじや……母乳しか飲んだことのなかつた百合夫の、あれが離乳食じやつたのやもしれんなあ」

「ぼくが、おばあさんの恥垢を……」

怒るよりも前に、こくりと喉を鳴らしてしまふ百合夫だが。

「齒も生えそろつておらんに、美味そうにわらわの恥垢を舐めてつてきての。わらわにとつては初フェラじやというのに……百合夫ときたら容赦を知らん」

「えっ おばーたんフェラもされたことないでつかつ」

ただでさえ立派な逸物を持つカルラである。

黙つていても、老若男女問わずしゃぶりついてくる者はいるであらうに。

「ほほ、知つての通りこつちはほとんど触れておらんからのう。己の指と舌がせいぜいじやわい」

長大なものは少し首を傾げるだけで唇まで届く。

百合夫を挑発するように、カルラは長く舌を伸ばしてその勃起した亀頭を舐めて見せる。

「んふ……ふふ、鈴口の中までチロチロと舐めおつてのう。己の舌しか知らん、わらわのここには刺激が強すぎじや。玉袋などもう、きゅんきゅんじやつたぞ。子種が後から後から造ら

れてもう、止まりはせんかつたわい」

「ちつちやい僕に、そんなことしてたなんて……おばーたん、変態すぎでつよう」

「変態なわらわは嫌いかの？ チンポは立派に反応しておるようじやが」

「そんなわけないでつ！ 変態大好きでつよっ！」

「ほほ、それはよかつたわい。いや、その後で百合夫の母に見つかつてえらく怒られたからのう」

けらけらと笑いながら言うカルラに、百合夫がきよとんと呆ける。

「えっ？ おかーたん、そういうので、そんなに怒つてたでつか？」

百合夫の母とて、そこまで常識人ではなかつたと思つたが……。

怪訝に思いつつ、百合夫は麦茶を口に運んだ。

「うむ、さすがに百合夫がわらわの精液で溺れてしまつたからのう。乳幼児にあの量はちとつらかつたやもしれん」

「ぶーっ！」

さすがの百合夫も噴かざるをえない。

「な、何してるでつかつ！ 口の中に出すとかサイズのありえないでつよっ！」

「そうは言つてももの……百合夫がわらわのものを離してくれなんだし……百合夫も先をちゅうちゅう吸うて、気持ちよくしすぎるのがいかんのじやぞ？」

「な、なんでつかそれは」

過去の記憶を思い出しつつとはいへ、発情した顔でそんなことを言われて平気な百合夫ではなく……。

「そんなわけで、百合夫が初めて飲んだ精液はわらわのものなのじや。それも溺れかけるくらいにのう……しかし、あんな目にあつても精液嫌いには育たずいてくれて嬉しいぞよ。ウンコが好きになるとは意外じやつたが……他ならぬ百合夫の頼みじや。この夏は、存分にわらわのウンコで百合夫を染めてやらねばのう」

「ひや、ひやわー、ぼ、僕だつて、おばーたんのこと、ウンコで染めてやるでつっ！」

「ほほ、これはよいわい。では、一晩溜めたものをお互い、絡ませあうとするかのう」

にんまりと笑うカルラの顔は、心底それらを愛する変態の貌であつた。

「んう……つと、ウンコが先に百合夫の菊を貫くことになるのはのう……我が糞ながら妬ましいわい」

「ウンコで犯されたがつてたのは、おばーたんじやないでつかーっ」

布団の上、開いた脚を交差し、互いに菊座を擦り付け合う祖母と孫。

周りには既に出し合つた糞便が散らばり、互いの肌にもすりつけ合わされ、飛び散つた精液の跡がある。何度も戯れた二人の今日の仕上げは、互いの肛門をそれぞれの糞で犯し合う、交流便遊びであつた。

押し付けあう陰囊は、内から膨らませ造り上げる多量の精液の気配を互いに伝え、吐精と菊悦の予感にじんじんと火照り、さらなる精を造る。

汗ばんだ尻肉同士が張り付き合い、互いの菊座が吸い付き合う。

「よ、ようし……よいか？ そろそろゆくぞ？」

「い、いいでつよう……おばーたんのウンコ、太いから入れ甲斐ありまつ……つ！」

互いに発情しきつた顔を見合わせると。

「んむっ……はおーっ！」

カルラがまずはいきみ、みちみちとその肉棒にも劣らぬ太さの便を、ひり出し始める。

「きひい、さ、さすがでつ……」

アナルを何とか開き、その便塊を啞えとろうとする百合夫。

吐き出される便は、カルラの遠慮ゆえかゆつくりとしているが……それでも確実にみちみちと百合夫の菊座を押し開いてくる。

「うひい、き、きまつ……！ 入ってきまつ！ おばーさんのつ、入ってきまつよう！」

「んおつ……ち、力をぬくんじや……百合夫つ、一気にやっつけてしまうぞよ……つ！」

カルラがじわじわとした排出を一気に強める。

「ぎいひいひい！」

百合夫のアナルを拡げていたものが、一気に中へと押し込まれた。

たまたらず叫び、背をそらす百合夫。

祖母のどこか優雅さを感じさせる糞便が、みっちりとして百合夫の直腸を貫く。それは十分な固形でありながらぬるりとした表面で腸壁を撫で回すようにしてくるのだ。

十分な太さを持つそれは、百合夫の菊座に綴じ入ることを許さず、みりみりとまだまだ入り込み、尻穴を陵辱していく。

「ど、どうじゃっ！ わらわのウンコに犯された気分はあー！」

汗まみれになって上気した顔で叫ぶカルラの肉棒はびんびんと跳ね、目の色も尋常ではない。念願の百合夫の尻を、便でといえ犯す高揚感に酔っているのだ。

「おほっ、しゅっ、しゅっいっでっ！ きついっでっよう！ でも次は僕の、番でっから……ねっ！」

続いて百合夫がいきみ、己の中にあるものを繰り出す。

若く、そして都会で肉類を食うことも多い百合夫のものは、祖母に比べてこつこつとして節くれだち、荒々しい蔵の如き便塊である。

みちみちと、カルラの便を押し返しながらか、それは出口へと近づいてゆく。

「おおお、ち、力強いっのう……わ、わらわのウンコが押し返されておるう！ た、たまらぬ、わらわのウンコじゃのに、久方ぶりに尻をチンポで犯されておるようじゃあ！」

情欲に狂いきったカルラは、チンポなら何でも構わぬとばかり、目の前の己の亀頭にしゃぶりつきながら腰を振りわめく。

「んっぎ……そろそろ……外に出るでっ……よっ！ おばあさんのお尻っ、これで、犯してあげまっから……っ！」

「く、くるのかやっ！ わらわの尻穴、存分に犯すがよいぞ……っ！」

期待し、菊座を拡げて待つカルラの中へ、一度は出した便が無理矢理押し込まれてゆく。それだけでも、彼女には十分な菊座であったが……こつこつと、百合夫の己とは異質な便塊が触れてくれば、期待で自らの顔に先走りを射精するように飛ばしてしまう。

「んむっ……もつとひっこめるでっ！ なかなか入らないでっよう……！」

「す、すまぬ、ごうか、や」

力を弱めれば、ぶすぶすと間の抜けた放屁の音が響く。

「そう、でっつ！」

「おほお！」

ぐぼっ、と放屁の隙を縫うように、一気にカルラの便を押し返し、百合夫の剛便が祖母の菊座を貫く。それはゆつくりと穴を解すようなものではない。荒々しい、一気に入り込む一撃だ。

「おふっ、ふおほっ、百合おほっ、もそつと、やさしゅう……っ！」

「大丈夫でっよっ！ これくらい、なーんてことないでっつ！」

さらに力を込めて、こつこつとした便塊をひりだす。

押し付けあう尻の間、百合夫のものは横に崩れもせずカルラの穴へと吸い込まれるように

入っていく。

「ほらっ、おばーさんもこんなに欲しがってたんじやないでっかつ！」

「ちがっこれはそなたに宿った神通りきゅうううう！」

ずぬっずぬっとして己の腸を犯してくる百合夫のもの。

こつこつとしたそれに腸壁をかきむしられて、カルラはついに吐精してしまう。

己のものをしゃぶっていた淫乱祖母の口を、顔を、多量の精液が穢して行く。

「あひい……す……百合夫のウンコ、すこすぎじゃあ」

精液を放ちながら……カルラは残る精も放とうと、ついつい下腹部の奥に力を込めてしまった。

ただでさえ体格差のある二人。百合夫は体力のある方でもない。

何より、カルラは生き神様である。

本気を出されれば力の差は明らか。

「んひやあつ！ な、なにをするでっ！ おばあさん！ ちよっ！ 聞いて！ 聞いてくだだっ！ はぎっ、ひい！」

しかし恍惚としながら己の精を搾る祖母の耳には届かない。

みちみちと糞便は再び押し返される。

カルラの腸を抉った百合夫の便が自らの腸を苛み戻り。

さらに、するりとしたカルラの便が百合夫の中へと押し入ってくるのだ。

自らのブレイキを止めてしまったカルラの出す量は、巨根に勝るとも劣らぬ体積である。百合夫の腸をみっちり押し広げ、それでもまだ入り込んでくる。

「へひい！ あひい！ ひやっ、ひやう！ らめれっ！ でっ、でりゅっ！ ウンコといっしょにせーえきでまっつう！」

腸内をみっちり占めてくる二人分の便の感触に、百合夫もたまたま精液を放つ。

自らの髪と顔を精液でどろどろにしながらか。

カルラと同様、百合夫自身の力で便が一気に押し出される。

が、カルラとして未だみちみちと多量の便を吐き出しているのだ。

びたびたと張り付きあう陰囊は、まだまだ互いが射精中であることを感じさせ。このセーブのできない排便が互いに続くことを示していた。

「んおつ！ ふあっ、うふうう！ まだ、まだ出ておるう！」

身をよじって排便に力めば、それだけ精液も大量に吐き出される。

ただでさえ射精量の多い祖母と孫のこと。排便の力みを込められた今回の射精時間は並大抵ではない。

「づ、ぎっ！ んひい！ ま、まけない……でっよう！」

ずるん！

百合夫の中で確かにそんな音が聞こえた。

同時に、百合夫の中を犯す便塊の太さが倍になる。

「んきや、ひあ！ なんでつかあ！」

ずるずると、どんどん便は倍の太さを得て行く。

それはそのまま、出口まで……百合夫の菊座を内側から、外から押し入る便で広がるそれを、倍の太さにこじ開けようとしていた。

「ひ、あ……、ウンコが、絡まりあつて、でっつ！ ば、倍の太さなんて、無理でっよう！」

百合夫の腹の中は絡まりあい二本分の太さとなった便で、みっちり詰まりきり。

さらにそれは外にまで飛び出そうと、カルラの便を伝って……そうはさせまいとする



3417

百合夫の菊座をみちみちと内側から開こうとしているのだ。

しかし、百合夫が菊座に力を入れれば入れるほどに、奥から便を吐き出す力も強まる。百合夫の固く荒々しい便が内から穴を掘り、じりじりと外に出ようとしていた。

「はひ……はひい……ど、どうしたのじゃ？」

ようやく射精も残り汁がとろとろとあふれ出すばかりとなったカルラが心配げに身を起こす。未だ経験したことのない快楽とも何ともつかぬ感覚に襲われる百合夫のものからは、激しく精液が放たれており。

そんな様子に便に犯され満足しているのかと、カルラが目細めた瞬間。

「んぎよおおお！」

ぶぼつ、と激しい音を立て、絶叫する百合夫の尻から。

つながるカルラの便に沿って這う蛇のように、百合夫の便がカルラの肛門を襲った。

「む？ な、なんひやぎやああああああ！」

絡まりあう蛇、二重の螺旋となった便が、一気に、カルラの菊座をみしりと押し広げ。足止めさえ受けず、一気に腸内を這い進んでいく。

それは百合夫のアナルを押し開いた爆発力によってなお激しく。

茶色のDNA螺旋となつてカルラの奥深くまで一気に貫いたのだ。

既に自らの便で拓かれていた腸とはいえ、それが突然倍の太さに変わるなど、カルラにとっても初めての経験である。

「おつ、おつ……うお……うお……ほお！」

「ひいゆ……ゆるめてえ！ ひ、ひつこめるでつよう」

絡まりあつた二人の便は、互いに、何とか自らの便を収めようとすれば逆に、相手のものを引きずり出し、自らの奥へより太いものを導いてしまふ。

たまたま外へ押し出すとすれば、相手の側により長く長くなつた一撃が襲うのだ。使い馴れこねれた二人の菊座さえも、限界まで掘られ、絡み合う二つの便にその粘膜と肉輪を擦られれば、二人して射精させられる。

絡み合う便に陵辱されあう二人は、まさに便辱の永久機関となつて、限界まで互いに便を引っ込めては出し、引っ込めては出して。その菊座を激しく犯しあい、慰めあつたのだつた。

「いやー。お腹がすかなかつたら、いつまでやってたかわかんないでつね……」

「うむ……部屋も昨日以上にすごい有様じゃな。天井板まで精液まみれじゃ」

夕食時。

屋敷を抜いてまで互いの尻を便で犯しあつた二人だが、腹が減つてはまぐわえぬとばかり、ようやく互いに腰を離し……びつたりと螺旋型に絡まりあつた長便を、互いの腸からようやく外界へひり出したのだつた。

「む……これは」

「ど、どーしたんでつ、おばーたん」

そのひり出したものを、しげしげと真面目な顔で見る祖母。

「何、これはよい注連縄になりそうじゃ。一つ神木に巻いておくとしよう」

「えええ……それって、さ、さすがにバチ当たりなんじゃないでつか？」

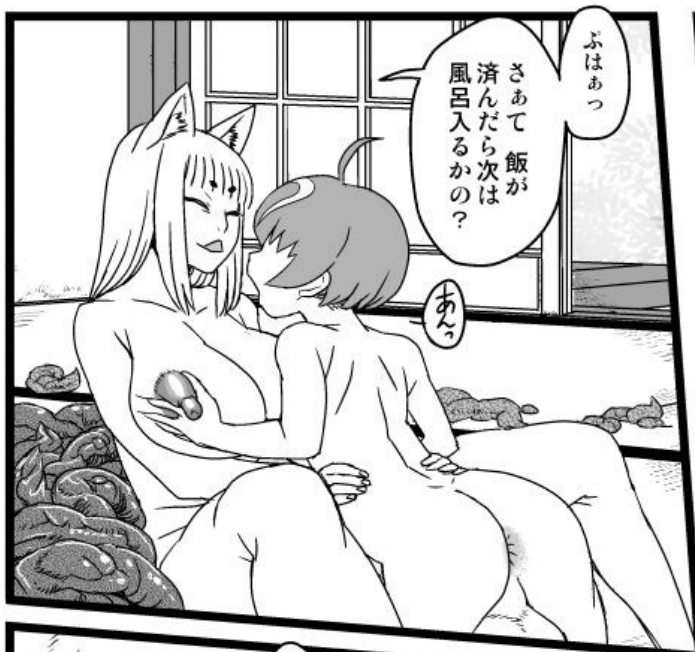
「何を言う。生き神様とその孫のウンコ、しかも神通力を帯びたモノじゃぞ。ありがたいに決まつておるわ。これは祭具として相等のものじゃぞ」

「そ、そーでつかねえ」

「ともあれ、まずは夕飯じゃ。食後にはちと、神木にこれを巻いてくるとしよう。来年からも毎年、この注連縄を造るため、今日のやつを頼むぞよ、百合夫」

「ひや、ひやい……」

少しばかり、よくない方向に染めてしまったかもしれない……そう思う百合夫であつた。



どっちゅり♡

ほっ♡

ほっ♡

さあっ一緒に
お風呂遊びする
ぞえっ♡

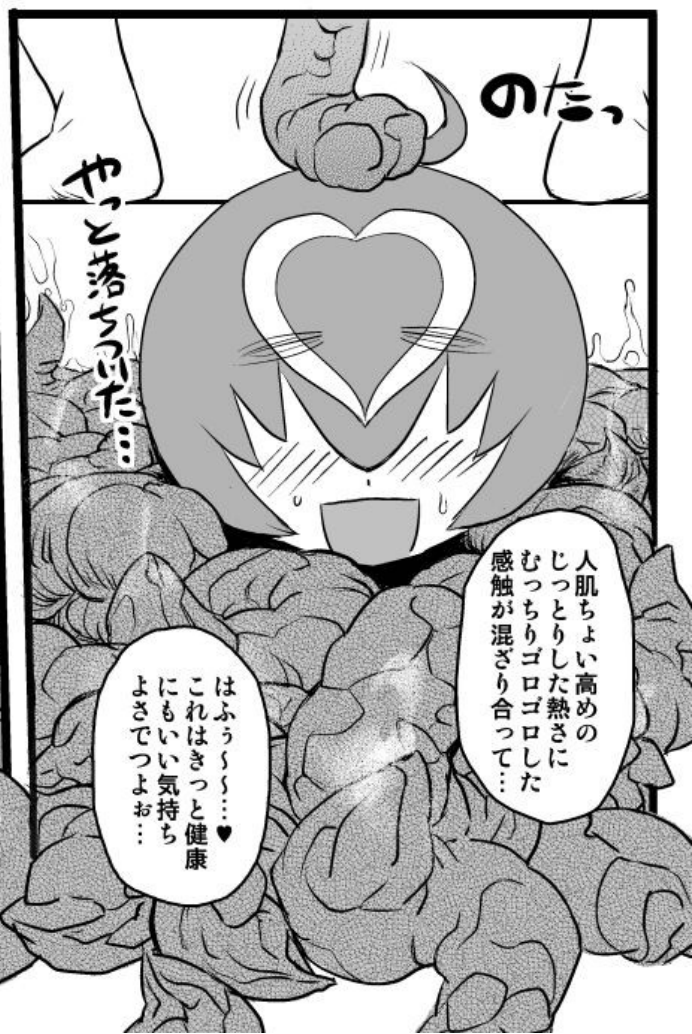
さっきお主が
居眠りしてる間に
用意したうんこ
風呂じゃ♡

すごいっ!!
うんこ
風呂でっ♡

本物だ♡

わあっ





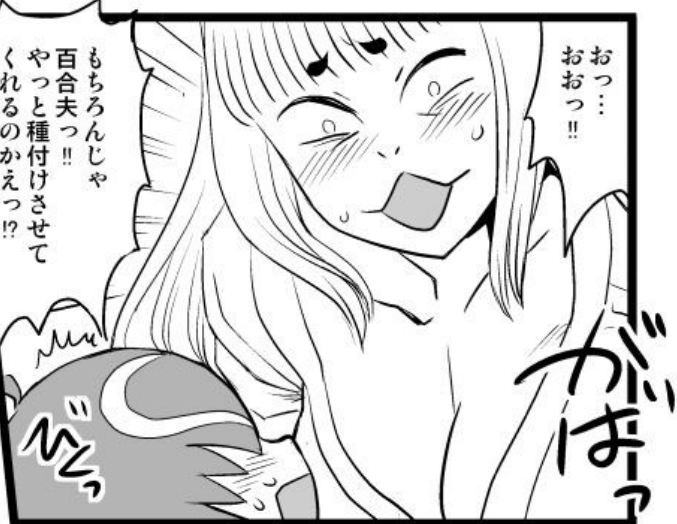












16291



47

47

あー

ああ――

ずっとガマン
してきたのに…
とうとう
やっちゃった…



百合夫、
百合夫、♡



ぬふううっ
これが孫息子を
征服した感触っ!!♡

百合夫っ!!!
今日からお主は
わらわの妻じゃ♡
お妾じやつっ!!♡
わかったなっ!!!♡

おばあさんの還暦ちゃんぽ
たくましすぎまっうッ♡
こんな牡汁スッゴイ
年代物童貞に愛されたらっ
どんな純情な男の子でも
自動的にお嫁たんアナル化
しちゃうでっよおおっ!!!♡

あー♡
あー♡

ズグッ

ズグッ

ズグッ

ズグッ♡

グッ♡

ようっしっ♡
受けてたっぞえっ
ほれえっ!!
おうえす! おうえす!!!♡

おほッ♡中で
糞のお迎え
じゃっ!!♡

ぬ
ぎゅっ!

なんじやつ
わらわのチンポと
押しっこ遊び
したいのかえっ!?♡

ズグッ

ズグッ

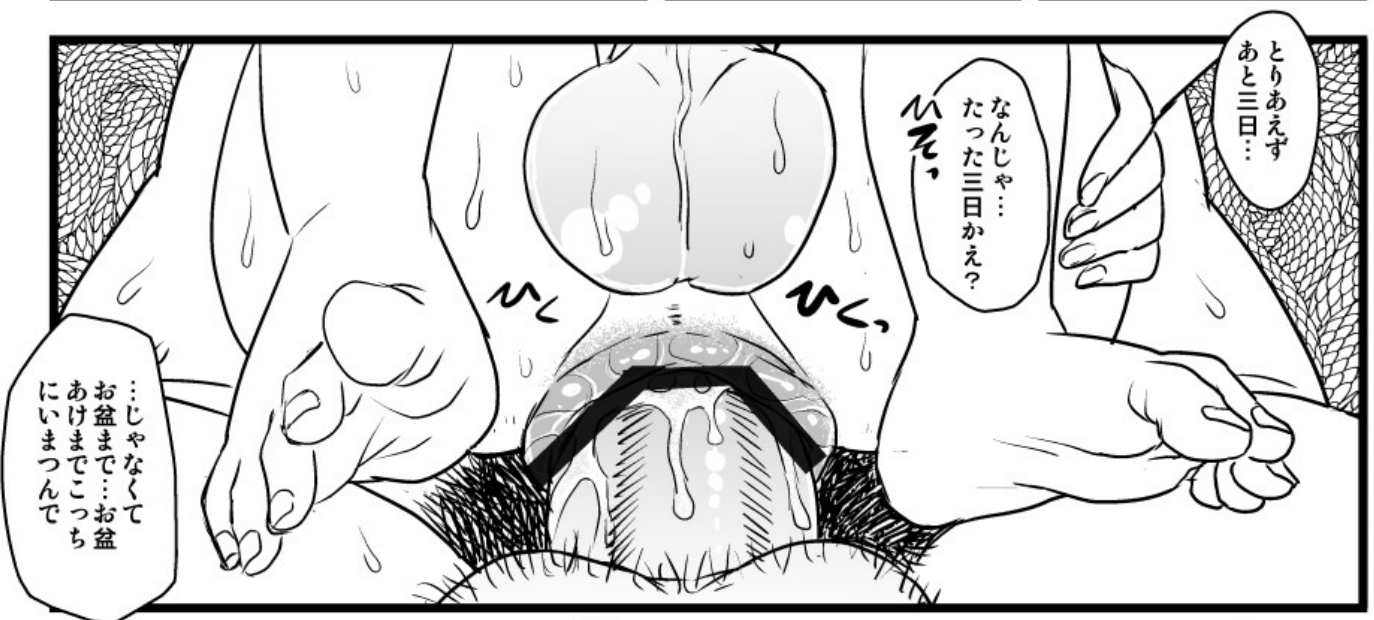
ズグッ

ズグッ♡





七日目





みなさんこんにちは☆
百合夫でつ~~~~♡

16-BIT

百合夫くんと みかんきゅん

今日はお友達の
みかんくんのおうちで

一緒にあそんでるん
でつよお♡♡

by チンズリーナ

愛しの
お兄さまああん♡♡♡

ああ〜♡

あつ♡
カッコイイかも♡

おかまいなくてっー

ちよつと味見
したくなってきたでつ♡

おーい

飲み物もってきたぞー

ンホツ☆
噂に違わぬ
イケメンさん♡

みかんくんが
夢中になるのも
無理はないでつね♡



百合夫くん
ダメえ！

ちよっとボクと

カッコーン

ボン

ボン

みかんくんの
お兄さんって

カッコイイん
でつねえ

ふおおお
スケベなデカチン

いいこと
しませんでつかあ

お兄さんだつて
ボクのデカチンに

興味津々みたい
ですしい

お兄さまは
ボクの彼氏なのお！

アナルは浮気に
ならないでつよお

もうっ

おしりだつたら
ボクのほうが大きいもんっ

ンホッ
弟のデカケツ

ねえ
お兄さまああん

ボクのウンチ穴
見てえ

おいん

お

お





~~~~~の♡♡

~~~~~せ

★END★

お兄さまの
浮気者~~~~!!

わからない
でつねえ…

でもどっちの
ウンチで
ドッピュンしたか

あつ♡
とても幸せそうな
顔でつねえ♡

さるピク所属
ドミニク

な・ん・と

みんな元気？
ドミニク☆ちゃんねる
本日は特別ゲスト！

百合夫の
おばあちゃん
カルラさん！

カルラさん

いやー
すごいですねー♡

こりや！
レディに向かって
たれとはなんじゃ！
たれとは！

たはは

スニッ

まったく悪い子じゃ
ここもこんなにし
てからに

さすが百合夫の
お婆あちやまですよ
まさに貫禄の
どデカ尻と垂パイ！

あふっ♡

ニキ

三チ



へへ……♡
カルラさん
お尻突き出してみ
てくれますか？

ふむ

ごうかのう？

ゴッ
チッ

チッ
チッ
チッ

今度別件でこれで
僕のおしり可愛がって
欲しい……♡

はー……♡
この重量感
すごい……♡

ふーむ
百合夫の友達の頼み
考えておくと
しようかのう♡

ゴッ
チッ
チッ
チッ





臭

臭

おっ♡

おおっ！

ほおおお♡

おおんごおお♡

グ

グ

グ

グ

グ

グ

グ



あ——！

産みたてうんこが
ボクの腸内なかに
還ってきたあ！

これって胎内回歸でつかっ
むしろ近親相姦でつかあ

ヌボ

あひこ♡
ミルクでちゃう♡

おちち噴いちやい
まつうう♡

ぶる♡

坊や♡
ママの腸内なかで
いっぱい甘えて
いいんでしょ♡

なかなか
よかった
でっ♡

フビ
♡
ユ

グ

ビキ

ビキ



「先輩の誕生日は何でも
言うこと聞きますう〜」とか
このあいだ言ってたじゃないかー

せっ
先輩っ!?

うーん
いい眺めだなあー

でも
こっこれは!

…って

ああ…

可愛い後輩の
うんこお…

駄目ですってば先輩!
やだっちよっ…
こらあ〜!

ちゅっ



も、ん、ん、

ん、ん、

は、あ、あ、

は、

は、

ん、ん、?
ん、ん、!

ん、ん、う、う、!

ん、ん、...

ん、ん、...

ん、ん、ん、ん、

ん、ん、

は、あ、あ、

は、あ、あ、

ちょ…
だめえツ！

健康便でもあの量は
堪えるなあ…

はっ

はっ

じゃあ
そろそろ…

はっ
はっ

ウンコ喰われて
チンポバキバキに
してる奴の…

んああっ♡

言う事かっ！

んおおッ!

そんなに
前立腺イジめたら…

前から凄いの
出ちやいましゅうッ!

え…
遠慮しますう!!

じゃあ
今度は私のを…

んんんッ!
んほおおおッ!!



早くひとりで
ウンチができるように
なってほしいんだけどなあ。

ね、ねえ
聞いている？

カシカ
カシカ

すって
て

ポ
ン



ビチャ♡

ビチャ♡

ジュホッ

ビチュッ♡

完

んう~~~~~

祀り事の最中といえど

脱糞の気にはかなわんのお

皆は舞の出し物に夢中じゃろうし

この**御神木様**の裏に隠れて…

ぽんぽんぽんぽん

ふおおおっ!?

なんちゆう勢いじゃあ!! 尻の穴が

はみ出ちったわい!

この感覚はクセになるのう♥

青空脱糞とな 酔狂なものを知ったのう♥

なんとも立派な

巻き糞 じゃ♥

『ゆるさんぞ…』

ん?



『今までのふしだらな業も
忘れたとは謂わせんぞ!!』

『その身を持って
償うがいいッッ!』

え?
何じゃ……

『貴様が我が地にばらまいた糞を
存分に喰らうがよいぞ……!』
『因果応報、也』

インクン!!

ずるっ

ずるっ

ぶる

ズルッ

ぶる

ズルッ

キュッ

んびん!!
熱っ!!?

ヒッ

…キライじゃないかもしれない♡

あら？ごきげんよう
躑宮眩ですわ。
これからお茶会に持参する
お菓子の材料を用意しますの。
味見でもしていきませんか？

よい…しよつと。

コッ

え？なんで皿を床に置くのか？
そんなの決まってますわよ
だって出しずらいでしょう？

!?

あつ……おつ！おうひつ！
こ、このおウンチのビターさが……ああつ！
お紅茶によく合ふうつ！
……んですのよおおつ！ おぐほおつ！

んひいつ！

おお……おおおつ！んおおつ！
フリフリyumフリユリユッ
出るっ！まだ出るうつ！
フリフリピブリュッモリモリッ
おぐあつ……はひいひいつ！
フリフリブリッドチャドチャブチャッ

おふおつ！で、出るっ！
眩のくっさいお大便弾け出りゅつ！
おもくそ下排便しちゃいますからあつ！
んっふうううっ！

はっ……ひい……ひああ
（……フリユビッ）
おぐあつ！またあつ！
フリフリッブチュルブッ
うっくあ……こんなに……
はあはあ……
ふふっ、言わなくてもわかってますわ。
たんと味見して構いませんわよ。



ああ

はああ

んおお！
これで5発目だ！
くらえっ！

んあああ
ご主人様
そんな激しくしちゃっ
あはああ

さあ今日も
いっぱい
出るんでしょ

そんな
ご主人様あ

チンポが全部
入らないくらい
デカくて力チカチ
のが当たってた
もんねえ

ほらっ見せてみなさい！
おっほっ精子まみれの
ガチガチうんこ降りてきてる
じゃん！

やあん！

ご先祖様に倣って真面目な
藍狐も前は処女同然なのに

こんな従順なのに
ご先祖様は
手出さなかったなんて
もったいないなあ

ご先祖様は
非常に真面目で...

肛門ガバガバの肛門アクメ
大好き娘だもんねえ

そっけは
ご主人様があ

んなことより
早くひり出してよあ
早くっ早くっ

っうう
し仕方ないですねえ

はおおおお!

おおお出た出た!
ひり出しながらイってら
あたしのチンポより
ぶっといくて長いのが
そんないいんだっ

ああああ
は恥ずかしい

なあにが恥ずかしいよ
普通の交尾じゃ
もの欲しそうな
目で見てくるくせにっ

ご主人様が
仕込んだんじゃ
ありませんかあ

フフ!
じゃあさ
肛門交尾大好きで
脱糞でイっちゃう
肛門狂いの淫乱女です
って言うてよ

…っ!

だっていくら
仕込んだからって
まさか脱糞で
イっちゃうなんて
思わなかったわ

え?

やっぱり元々
肛門弄られるの好き
なんでしょ?
だからぶっさいの
出すんしょ?

そんな…っや…

とんだけ
出すのよ
エロ過ぎるわ

はうっ…

ははっいいいよっ
抑えらんないわ
しほらく肛門
閉じられなく
してやるわ

その前に
まだ中に残ってる
んでしょ

残らず
ぶちまけさせて
あげるっ!

肛門交尾…大好きで
脱糞でイっちゃう
肛門狂いの
淫乱女ですう

私は…

ねえねえリタあ：
ホントにエッチな事
するだけでボク達
やせるのかなあ？

そりゃあやせるわよ
要は運動して汗を
流せばいいんだから

どうせ体を動かすなら
楽しく気持ちよくした方が
フィノもいいでしょ♡

まずはパイズリ
ダイエットよ♡

ポギ

たふん

たふん

フィノ

ランドレース種の豚とエルフの交配で産まれた
ブタエルフの少女。両性具有の稀有な存在で
品種改良の交配豚として重宝されている。



それじゃあ
はじめましょ
フィンノ♥

ムネ

あッ♥んほおお♥
駄目よフィンノお♥
引ッ張りすぎ!
乳首そんなに
引ッ張ったらあ♥

ふにゃあ♥
リタのおっぱいと
たぶたぶの腹肉が
すくく柔らかくて
気持ちいいよお♥

フィンノいい?
私のお乳を
強くこねながら
あなたのおちんぽ
擦り付けるの♥

ほッ♥ほああああ♥
こつてり豚ミルク
射乳ちやうううう♥

リタ

パークシャー種の豚とエルフの交配で産まれた
ブタエルフの女。フィンノを立派な交配豚にする
為の世話係だが、彼女に惚れ込んでいる。

んほおおおおおお
うんこおおおお
フィノの極太うんこ
ミチミチ出てきたあ

はにゃああああ

リタの顔に向かって
うんちひり出すの
すっごい興奮するよお

リタ♥リタあ♥
ボクやばいかも♥

リタの顔にうんちするの
最高でやみつきに
なっちゃったかもお♥

私なる♥今日から
フィノ専用のおトイレになる♥
フィノのおしっこもうんこも
全部受け止めるよ♥

だからもっともっと
私を好き勝手使って
気持ちよくなっ♥て
フィノ♥

すっごいよリタ！
ボク本当に
やせてきた
気がするよ！

それじゃあ
最後の仕上げ
始めましょ♥

ビクン

い

リタのうんこ♡
ズンッてボクの
金玉にい♡

金玉のザーメン♡
うんこの重みで
押し出されるう♡

ほああ♡フィノに
膣中出しされながら
脱糞するの最高お♡

またしようね♡
フィノ♡



いい汗
かいたね♡

ボクおなか
すいた♡

ウフフ...

そうねえ
ご飯食べに
行こっか？

焼肉食へ放題
とかどう？

焼肉サイコー！
ボクいっぱい
食へちゃうぞ♡

アハハ...

1ページ目に戻る
おわり

お尻の…穴が捲れて…

ん…出る…わ…

うんちが…でちや…う…



こんなに沢山：
うんち：ひり出してゐる…

ブリュ

ブリュ





ほら、あなたのお尻の穴に
私のうんこがたっぷり出てるわよ
温かいうんこがお尻の谷間に
満ちていくのがわかるでしょ？

私のうんこを擦り込んで
あなたの尻の穴に詰めてあげる
それからお尻の穴に奥まで送り込んで
私のうんこをあなたのお尻の奥で
混ぜ合わせて出来た二人の赤ちゃんを
排泄するのよ

後書き

こんにちは。ラヂヲヘッドですよ。
今回はついに念願のスカトロ本を出すことができました。
スカトロだけでここまでボリュームを出せたことに自分でも驚いています。

今回スカトロを描くにあたってラヂヲヘッドが腐心したのは、排泄物の不潔感を過剰に演出しないということでした。実のところうちはスカトロマニアとしてはかなり徳が低く、下痢軟便NG、具体的な匂いの説明もNG、不潔フェチ的な要素もNGというかなり限定的で軟弱なスガ好きなのであります。

ラヂヲヘッドにとって排泄行為、および排泄物は、SM的な恥辱プレイでも、精神的な調教の一部でもなく、あくまでそのものでしかありません。排泄物と排泄行為が好きだけで、それらに付随してくる不衛生さ、不潔さ、悪臭などはむしろ嫌悪したりしています。なので、排泄物が不潔でなければそれに越したことはないのですが、かといって擬似うんこを詰めて排泄とか、うんこ以外の何かを排泄することには、これまたさっぱりエロスを感じなかったりします。やはり体内で生成された物体というものに対してエロスを感じるものであり、そういう意味で、うんこというものは、自らを内側から犯すペニスなのではないかと考えております。下痢軟便や液状の排泄物が苦手なもの、つまりところ汚染がカオスに拡散しないように固形を保っていてほしいということと、便がペニスとしての実体を保ち続けていてくれなければエロスを感じないということなのではないかと思えます(例外的に握りつぶしたりするのは好きなんです、塗糞するにせよやはり便が便としての自己主張を失うほどまで薄く塗り広げるのはあまり好みではありません)。だからこそ、極太であり、長大であり、大量である一本糞にひたすらこだわるのでしょう。

とまあ語ろうとするとそれこそ10pくらいに渡って語ることも可能なのですが、そろそろこらへんにしておきます。このようなかなり限定的な縛りのある本に参加してくださったゲストの皆様には感謝してもしたりません。これほどの物量でスカトロ作品が一堂に会することも同人ではなかなか少ないことと思いますので、ぜひ各作家のスカトロに対するアプローチの差を見比べて楽しんでみてください。

2011.8.4

奥付

発行日 : 2011.8.14
発行者 : 革命政府広報室
印刷所 : PICO

連絡先 : parano@jcom.home.ne.jp
HP : <http://www.radio.sakura.ne.jp/>
Twitter : Radio_paranoia
Pixiv : <http://www.pixiv.net/member.php?id=4122>

